

ペルー

大統領・国会議員選挙

田 中 高



去る4月9日ペルーでは大統領・国会議員選挙が実施された。筆者はこの選挙に外務省中南米局の大鶴哲也事務官と共に、OAS(米州機構)の選挙監視団のオブザーバーとして参加した。現場での経験や感想など報告したい。

まず選挙結果については、4月16日の夜に中央選挙管理委員会が開票を終了し、最終報告を行なっている(表参照)。大統領選挙におけるフジモリの得票率64.42%は驚異的な高率で、ペルー選挙史上最高の数字である。ペルーは民間会社による世論調査が盛んで、今回の選挙でも各社が独自の予想を発表した。9日の午後3時に投票が終了するとほぼ同時に、ラジオでは一斉にフジモリの当確を報じていた。

事前の予想と大きく食い違ったのは、国会議員選挙である。議席総数120のうち与党カンビオ90・新多数運動が過半数を越える、と見るケースは稀で、内外各紙の中には「過半数獲得は絶望的」という論調もあった。実際には予想に反して67議席を獲得するという結果になった。フジモリ大統領自身、9日の投票終了後の地元テレビ局とのインタビューで、予想外の支持率だったと率直に認めていた。結果的に「フジモリの一人勝ちの様相が強くなっている」(遅野井茂雄「ペルーの経済自由化の展開と課題」〔本誌 第12巻第1号 1995年3月〕)という予想が現実のものとなったようだ。

ところで筆者たちは投票日、たまたまOASのセサル・ガベリア・トゥルヒーヨ事務総長(元コロンビア大統領)の一行と行動を共にした。午前8時の投票時間に間に合うようにOASの事務所を出て、最初はリマ市内の高級商業・住宅地のミラフロレスに向かった。チャムサグナットという小学校らしきところに到着したのは午前8時半頃であった。ところが驚いたことに、なんと投票はおろか投票用紙の準備も終わっていない状態で、ガベリア氏もいささか拍子抜けの面持ちであった。しかしこれで、OASの選挙監視がまったく抜き打ちであることも明らかになったと思う。

私たち2人を含むガベリア事務総長一行は内外の報道陣の車約20台を伴って、午前中いっぱいをかけてリマ市内と、隣接する港町カヤオの投票所計9カ所を訪問した。これはOASの選挙監視活動をピーアールする機会でもあったが、投票所で一般の有権者から直接苦情や要望が出されることもしばしばあった。今回の選挙でOASが経験した監視上の最大の危機は、リマ北東にあるウアヌコ県で4月6日に起きた投票集計用紙の不正事件であろう。OASのリマ選挙監視事務所のサンティアゴ・ムライ代表も「あの時はパニックだった」と述懐していた。ウアヌコで3000枚の集計用紙が不正に

写真：投票を待つリマ市民

持ち出されているのが発見され、そのうち500枚に与党カンピオ90・新多数運動が有利になるよう数値が記入されてあった。1枚の集計用紙が200人分で、計10万人分の投票結果に相当する。ウアヌコ県の有権者総数は約30万人である。野党側は投票日の延期を申し入れたが、中央選挙管理委員会



一票を投じに来た婦人（リマ市内）

これを却下した。

投票終了後OASはコミュニケを発表し、野党側の姿勢にも苦言を呈している。いわく「本監視団の判断では、ペルーの選挙制度は立派な組織を有している。しかるにいくつかの政治勢力は十分な信頼を寄せていない。この経験を生かして、信頼を取り戻すためのメカニズムを検討することが望ましい」。

この事件で筆者が鮮烈な印象を受けたのは、野党議員がテレビでOASの監視体制を激しく非難したことである。70人の監視員では至らない点が多々あろうことはもっともである。しかし驚いたことに、この議員はガビリア事務総長の大統領時代のスキャンダルに言及して、個人攻撃を開始したのである。筆者はかつてニカラグア、エルサルバド

ペルー大統領・国会議員選挙最終結果

大統領選挙

	得票率(%)
フジモリ	64.42
ベレス・デクエアル	21.81
カバニージャス	4.11
トレド	3.24
ベルモン	2.58
デイエス・カンセコ	1.64

国会議員選挙

	議席数
カンピオ90・新多数運動	67
ペルー統一運動	17
アブラ党	8
独立浄化戦線	6
民主結集・可能なペルー運動	5
人民行動党	4
キリスト教人民党	3
革新独立運動	3
オブラス党	2
統一左翼	2

（出所） 在ペルー日本大使館作成資料。

（注） 1議席以下は略。

ルの国連選挙監視団に参加したことがあるが、国連に対する非難はあったものの、揚げ足取りの個人攻撃は聞いたことがなかった。

あるペルー政治の専門家の話では、このような個人攻撃は間々あることで、「この国の政治家は汚いですよ」ということだった。ペルーの国民は、こうした既成の政治家の行動・言動に飽き飽きしているのかもしれない。フジモリが圧勝し、国民から政権運営に白紙委任状を渡された背景には、政敵をデマゴギーでつぶしていくような既成政治のスタイルに決別する、選挙民の意志があったのだと思う。フジモリの再選はその意味でも、ペルー政治の流れを決定的に変えるできごとになったと思う。第2次フジモリ政権の成功を祈りたい。

（たなか・たかし／中部大学助教授）